アドマイヤー®
①粒剤

幅広い適用作物と優れた残効性。
定植時の植穴処理。
少ない薬量で長〜い効き目!!

- 浸透移行性に優れ、長期間主要害虫を防除します。
- 防除回数を減らせるので省力化が図れます。
- 速効的に作用し、ウィルス病を予防します。

アブラムシ類

コナジラミ類

ミナミキイロアザミウマ

950g入

3kg入

®アドマイヤーはバイエルグループの登録商標

アドマイヤー® ❶粒剤

農林水産省登録 第18218号
有効成分：イミダクロプリド 1.0%　殺虫剤分類 4A
人畜毒性：普通物（「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指していう通称）

■適用害虫および使用方法

（2019年3月現在の登録）

作物名［ ］は適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	3kg/10a	収穫7日前まで	2回	散布	3回（種もみへの処理または移植時までの処理は1回、本田での散布は2回）
かんきつ（苗木）	ミカンハモグリガ	20g/樹（但し、6kg/10aまで）	育苗期	1回	株元散布	—
れんこん	イネネクイハムシ	3kg/10a	植付時		植溝土壌混和	3回（植付時の土壌混和は1回、植付後は2回）
	クワイクビレアブラムシ	4kg/10a	収穫14日前まで	2回	散布	
かんしょ	コガネムシ類	4～6kg/10a	植付前		作条土壌混和	3回（植付前の土壌混和は1回、散布は2回）
		6kg/10a			全面土壌混和	
さといも さといも（葉柄） ばれいしょ	アブラムシ類	4kg/10a	植付時		植溝土壌混和	3回（植付時の土壌混和は1回、植付後は2回）
豆類（種実、ただし、だいずを除く）		3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	3回（は種時の土壌混和は1回、散布は2回）
だいず		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌 約1.5～4ℓ）当り50g			本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの培土に均一に混和する	
豆類（未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめを除く）		2g/植穴（但し、6kg/10aまで）	定植時		植穴土壌混和	3回（定植時および は種時の土壌混和は合計1回、散布は2回）
		3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	
えだまめ		2g/植穴（但し、6kg/10aまで）	定植時		植穴土壌混和	
		3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	
		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌 約1.5～4ℓ）当り50g			本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの培土に均一に混和する	
さやいんげん		1～2g/株（但し、6kg/10aまで）	定植時または播種時		植穴土壌混和	
未成熟そらまめ		2g/植穴（但し、6kg/10aまで）	定植時			3回（定植時およびは種時の土壌混和は合計1回）
		3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	
きゅうり		1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	4回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計3回）
	アブラムシ類 アザミウマ類	1～2g/株	定植時		植穴または株元土壌混和	
	コナジラミ類	2g/株			植穴土壌混和	
すいか	アブラムシ類	5g/株（但し、3kg/10aまで）			株元土壌混和	4回（定植時の土壌混和は1回、散布は3回）
		1～5g/株（但し、3kg/10aまで）			植穴土壌混和	
	アザミウマ類	1～2g/株（但し、3kg/10aまで）				
メロン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元散布	4回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は合計3回）
		1～2g/株	定植時		植穴または株元土壌混和	
	アザミウマ類					
	コナジラミ類	2g/株				
かぼちゃ	コナジラミ類 アザミウマ類	2g/株			植穴土壌混和	3回（定植時の土壌混和は1回、散布は2回）
にがうり	アブラムシ類	1～2g/株			植穴または株元土壌混和	2回（定植時の土壌混和は1回）
まくわうり		1g/株			植穴土壌混和	1回
ズッキーニ	アザミウマ類 コナジラミ類	2g/株				4回（定植時の土壌混和は1回、散布は3回）
トマト ミニトマト	コナジラミ類	0.5～1g/株	育苗期後半		株元散布	3回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回）
	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2g/株	定植時		植穴土壌混和	
ピーマン とうがらし類	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元散布	
	アブラムシ類 アザミウマ類	1～2g/株	定植時		植穴または株元土壌混和	
なす	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元散布	3回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計2回）
	アブラムシ類 アザミウマ類	1～2g/株	定植時		植穴または株元土壌混和	
に ら	アザミウマ類	4kg/10a			植溝土壌混和	2回（定植時の土壌混和は1回、株元散布は1回）
			収穫30日前まで		株元散布	
に ら（花茎）	ネギアザミウマ		定植時		植溝土壌混和	
			収穫30日前まで		株元散布	

作物名［ ］は適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*
わけぎ あさつき	アザミウマ類	4kg/10a	定植時	1回	植溝土壌混和	3回（定植時の土壌混和は1回、散布は2回）
ねぎ						3回（定植時までの処理は1回、散布は2回）
はくさい	アブラムシ類	0.5g/株			植穴土壌混和	
キャベツ						3回（育苗期の灌注および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回）
ごぼう		4kg/10a	は種時		播溝土壌混和	3回（は種時の土壌混和は1回、散布は2回）
			収穫7日前まで	2回	株元散布	
だいこん		3～6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	3回（は種時の土壌混和は1回、は種後は2回）
ほうれんそうかぶ		4kg/10a				3回（は種時の土壌混和は1回、散布は2回）
非結球あぶらな科葉菜類		3～6kg/10a				2回（は種時の土壌混和は1回）
なばな類						なばなは2回（は種時の土壌混和は1回）、なばな以外のなばな類は1回
ブロッコリー		0.5g/株	定植時		植穴土壌混和	4回（育苗期の灌注は1回、定植時の土壌混和は1回、散布は2回）
レタス			育苗期後半		株元散布	3回（育苗期の処理は1回、散布は2回）
いちご			定植時		植穴土壌混和	1回
パセリ	アザミウマ類					2回（定植時までの処理は1回、散布は1回）
	アブラムシ類	3kg/10a	収穫14日前まで		株元散布	
			は種時		播溝散布	
ごま					播溝土壌混和	1回
こんにゃく		3～6kg/10a	培土時（基根伸長期）		株元土壌混和	3回（培土時の土壌混和は1回、散布は2回）
		6kg/10a	生育期 但し収穫21日前まで	2回	茎葉散布	
やまのいも	アブラムシ類 コガネムシ類	4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	3回（植付時の土壌混和は1回、散布は2回）
やまのいも（むかご）	コガネムシ類					1回
じゅんさい［じゅんさい田］	ユスリカ類	3kg/10a	収穫前日まで	2回	散布	2回
たばこ	アブラムシ類	3kg/10a（1g/株）	植付時	1回	植穴土壌混和	2回（植付時の土壌混和は1回、散布は1回）
花き類・観葉植物（きく、ばら、ペチュニア、レザーファンを除く）		2g/株（但し、6kg/10aまで）	生育期	5回	株元散布	5回
樹木類（つつじ類を除く）	コガネムシ類	4kg/10a	植付時	2回	作条土壌混和	2回
つつじ類			植付又は植替時			5回（株元灌注は2回、土壌混和は2回）
	ツツジグンバイ	6kg/10a	発生初期	5回	株元散布	
きく	アザミウマ類	3kg/10a	生育期		散布	5回
	アブラムシ類	2g/株（但し、6kg/10aまで）			株元散布	
ペチュニア		1g/株（但し、3kg/10aまで）	定植時	1回	植穴土壌混和	
レザーファン	アザミウマ類	1g/株（但し、3kg/10aまで）	生育期	5回	株元土壌混和	
	アブラムシ類	2g/株（但し、6kg/10aまで）			株元散布	
ポインセチア	コナジラミ類	1g/株（但し、3kg/10aまで）			株元土壌混和	
ばら	イバラヒゲナガアブラムシ アブラムシ類	2g/株（但し、6kg/10aまで）			株元散布	

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

■注意事項

- 蚕に対して長期間毒性がありますので、絶対に桑葉にかからないようにして下さい。
- ミツバチに対して影響がありますので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにして下さい。本剤の作物への処理後、ミツバチの訪花活動に影響を及ぼすおそれがありますので注意して下さい。
- 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
- きくのミナミキイロアザミウマに使用する場合、生育期後半に使用すると効果が不十分になる場合がありますので生育期前半に使用して下さい。
- 本剤をだいこんに使用する場合、間引き菜またはつまみ菜として食用には供さないで下さい。
- トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、メロンの育苗期後半に使用する場合は、直径9cm以上のポットで育苗した苗に使用することとし、それ以外での使用は薬害を生じるおそれがありますのでさけて下さい。
- かんきつに使用する場合には、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後灌水をして下さい。効果発現が遅れることがありますので、対象害虫発生前に使用して下さい。
- 本剤を稲およびれんこんおよびじゅんさいに散布で使用する場合には、湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないで下さい。
- だいずおよびえだまめの育苗培土に混和処理する場合には、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した育苗培土を放置しないで下さい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 取扱いには十分注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐きださせ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。また粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼしますので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 散布後は水管理に注意して下さい。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のないものが使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を図って下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。　●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。　●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 https://cropscience.bayer.jp/
お客様相談室 0120-575-078 9:00～12:00、13:00～17:00 土・日・祝日を除く

（F-1021 19.03.IS）